

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-44559

(43) 公開日 平成7年(1995)2月14日

| (51) Int.Cl. ⁸ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|---------------------------|---------|-------------------------------|----------------|------------------|
| G 0 6 F 17/24 3/03 | 3 8 0 M | 7165-5B 7315-5L 7315-5L | G 0 6 F 15/ 20 | 5 5 4 H 5 3 6 |

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平5-209894

(22) 出願日 平成5年(1993)8月2日

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 井田 光一

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

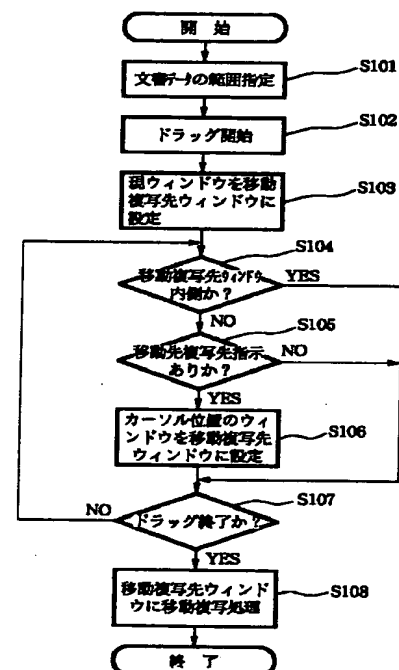
(74) 代理人 弁理士 渡部 敏彦

(54) 【発明の名称】 文書編集方法および装置

(57) 【要約】

【目的】 移動複写先が同一の文書編集ウインドウ内外のいずれにあるかに拘らず、文書データを、ポインティングデバイスによる一貫した操作方法により操作性よく、移動複写先に移動または複写することが可能な文書編集方法および装置を提供する。

【構成】 マウスカーソル8の位置が移動複写元の文書編集ウインドウ6以外の文書編集ウインドウ7内に存在すると判定され(ステップS104)、且つ該カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先の文書編集ウインドウに選択されていると判定されたとき(ステップS105)、該カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先文書編集ウインドウに設定され(ステップS106)、マウスによるドラッグ操作により(ステップS107)、移動複写元の文書編集ウインドウ7で範囲指定された文書データが移動複写先文書編集ウインドウに複写または移動される(ステップS108)。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集方法において、

ドラッグ中の前記ポインティングデバイスのカーソル位置が、前記移動複写元の文書編集ウインドウの領域内に存在するか否かを判定するステップと、

前記カーソル位置が前記移動複写元の文書編集ウインドウ以外の文書編集ウインドウの領域内に存在すると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先を選択されているか否かを判定するステップと、

前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先を選択されていると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウを移動複写先に設定するステップと、

前記ドラッグ操作の終了により前記文書データを前記移動複写先に設定された文書編集ウインドウに複写または移動するステップとを有することを特徴とする文書編集方法。

【請求項 2】 移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集装置において、

ドラッグ中の前記ポインティングデバイスのカーソル位置が、前記移動複写元の文書編集ウインドウの領域内に存在するか否かを判定する手段と、

前記カーソル位置が前記移動複写元の文書編集ウインドウ以外の文書編集ウインドウの領域内に存在すると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先を選択されているか否かを判定する手段と、

前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先を選択されていると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウを移動複写先に設定する手段と、

前記ドラッグ操作の終了により前記文書データを前記移動複写先に設定された文書編集ウインドウに複写または移動する手段とを有することを特徴とする文書編集装置。

【請求項 3】 移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集方法において、

移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されているか否かを判定するステップと、

前記移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されていないと判定されたとき、前記移動複写先の文書編集ウインドウを最前面に配置するステップと、

2

該最前面に配置された移動複写先の文書編集ウインドウ内に、前記文書データの挿入位置を表示するステップとを有することを特徴とする文書編集方法。

【請求項 4】 移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集装置において、

移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されているか否かを判定する手段と、

10 前記移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されていないと判定されたとき、前記移動複写先の文書編集ウインドウを最前面に配置する手段と、

該最前面に配置された移動複写先の文書編集ウインドウ内に、前記文書データの挿入位置を表示する手段とを有することを特徴とする文書編集装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はパーソナルコンピュータやワードプロセッサなどの文書編集装置により実施される文書編集方法および装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 パーソナルコンピュータやワードプロセッサなどの文書編集装置による文書の編集に際しては、移動または複写モードにおいて、範囲指定された文書データをキーボードやマウスなどのポインティングデバイスのドラッグ操作により、同一の文書編集ウインドウ内の他の位置に移動または複写することが一般に行われている。また、この種の文書編集装置では、ディスプレイ画面を複数の文書編集ウインドウに分割し、これらの文書編集ウインドウ内で、複数の文書の編集がそれぞれ独立に実施できる機能を備えたものがある。

【0003】 この場合、異なる文書編集ウインドウ間での文書データの移動または複写が行えると、文書編集の効果を高めることが認識され、最近の文書編集装置には、同一の文書編集ウインドウ内での文書データの移動複写は、ポインティングデバイスのドラッグ操作で行ない、異なる文書編集ウインドウ間での、文書データの移動または複写は、一度メモリに格納した文書データを読み出し、読み出した文書データを移動複写先の文書編集ウインドウに移動または複写することにより行なうものが提案されている。そしてこれらの場合、文書データが移動または複写される位置は、ポインティングデバイスのカーソルが位置している文書編集ウインドウ内の位置、または该文書編集ウインドウ内で別途設定された位置が利用されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 前述のように、異なる文書編集ウインドウ間において、文書データの移動または複写が可能な上記提案に係る文書編集装置による文書編集では、同一の文書編集ウインドウ内での文書データ

50

3

の移動または複写と、異なる文書編集データ間での文書データの移動または複写とが異なる方法で行われている。このために、操作に一貫性を欠いて操作性が悪く、文書データの移動複写処理に際してオペレータにはかなりの操作上の負担がかっていた。

【0005】ところで、文書データの挿入位置にカーソルが示す位置を利用すると、ドラッグ終了時のカーソルの挿入位置への設定に際して位置が目的位置からずれ誤挿入が生じることがあり、別途に挿入位置を設定すると、ポインティングデバイスのドラッグ操作時に文書データの挿入位置が確認できないという問題がある。

【0006】また、この種の文書編集に際しては、文書データを範囲指定する移動複写元文書編集ウインドウと、文書データが移動または複写される移動複写先文書編集ウインドウとに、ディスプレイ上で重なり部分が存在することがある。このように移動複写元文書編集ウインドウと、移動複写先文書編集ウインドウとに、ディスプレイ上で重なり部分が存在すると、移動複写先文書編集ウインドウが最前面にないことがあり、この場合には、移動または複写位置を正確に指定することができない。

【0007】本発明は、前述した問題点を解決するためになされたものであり、その第1の目的は、移動複写先が同一の文書編集ウインドウ内外のいずれにあるかに拘らず、文書データを、ポインティングデバイスによる一貫した操作方法により操作性よく、移動複写先に移動または複写することが可能な文書編集方法および装置を提供することにある。

【0008】また、本発明の第2の目的は、文書データをポインティングデバイスにより、移動複写先の文書編集ウインドウの所望の移動または複写位置に、操作性よく且つ正確に移動または複写することが可能な文書編集方法および装置を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】前記第1の目的を達成するために、本発明は、請求項1に記載の構成に依れば、移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集方法において、ドラッグ中の前記ポインティングデバイスのカーソル位置が、前記移動複写元の文書編集ウインドウの領域内に存在するか否かを判定するステップと、前記カーソル位置が前記移動複写元の文書編集ウインドウ以外の文書編集ウインドウの領域内に存在すると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先を選択されているか否かを判定するステップと、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先に選択されていると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウを移動複写先に設定するステップと、前記ドラッグ操作の終了により前記文書データを前記移動

4

複写先に設定された文書編集ウインドウに複写または移動するステップとを有することを特徴とする。

【0010】また、前記第1の目的を達成するために、本発明は、請求項2に記載の構成に依れば、移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集装置において、ドラッグ中の前記ポインティングデバイスのカーソル位置が、前記移動複写元の文書編集ウインドウの領域内に存在するか否かを判定する手段と、前記カーソル位置が前記移動複写元の文書編集ウインドウ以外の文書編集ウインドウの領域内に存在すると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先に選択されているか否かを判定する手段と、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先に選択されていると判定されたとき、前記カーソルが位置する文書編集ウインドウを移動複写先に設定する手段と、前記ドラッグ操作の終了により前記文書データを前記移動複写先に設定された文書編集ウインドウに複写または移動する手段とを有することを特徴とする。

【0011】更にまた、前記第2の目的を達成するために、本発明は、請求項3に記載の構成に依れば、移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集方法において、移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されているか否かを判定するステップと、前記移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されていないと判定されたとき、前記移動複写先の文書編集ウインドウを最前面に配置するステップと、該最前面に配置された移動複写先の文書編集ウインドウ内に、前記文書データの挿入位置を表示するステップとを有することを特徴とする。

【0012】また、前記第2の目的を達成するために、本発明は、請求項4に記載の構成に依れば、移動複写元の文書編集ウインドウ内で範囲指定された文書データを、ポインティングデバイスのドラッグ操作により移動または複写する文書編集装置において、移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されているか否かを判定する手段と、前記移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されていないと判定されたとき、前記移動複写先の文書編集ウインドウを最前面に配置する手段と、該最前面に配置された移動複写先の文書編集ウインドウ内に、前記文書データの挿入位置を表示する手段とを有することを特徴とする。

【0013】

【作用】請求項1、2の構成に依ると、ドラッグ中のポインティングデバイスのカーソル位置が、移動複写元の文書編集ウインドウ以外の文書編集ウインドウの領域内に存在するか否か、及び該カーソルが位置する文書編集ウインドウが移動複写先に選択されているか否かが判定

5

され、これら2つの判定結果が肯定であるとき、前記カーソルが位置する文書編集ウィンドウが移動複写先に設定される。そして、ドラッグ操作の終了により、文書データが移動複写先に設定された文書編集ウィンドウに複写または移動される。

【0014】請求項3、4の構成に依ると、移動複写先の文書編集ウィンドウが最前面に配置されているか否かが判定され、移動複写先の文書編集ウィンドウが最前面に配置されていないと判定されると、前記移動複写先の文書編集ウィンドウが最前面に配置され、該最前面に配置された移動複写先の文書編集ウィンドウ内に、文書データの挿入位置が表示される。

【0015】

【実施例】

【第1の実施例】 先ず、本発明の第1の実施例を図1ないし図5を参照して説明する。図1は第1の実施例に係る文書編集方法のフローチャート、図2は第1の実施例を実行する文書編集装置の構成を示すブロック図、図3ないし図5は第1の実施例による文書編集過程でのディスプレイの表示の説明図である。

【0016】本実施例を実行する文書編集装置は、図2に示すように、全体の動作の制御を司る中央処理装置（CPU）1と、キーボードおよびマウスなどのポインティングデバイス（以降簡単のためポインティングデバイスをマウスに代表させ、単にマウスと呼ぶことにする）と、各種の情報の入力を行う入力装置3と、図1、図6等のフローチャートに係る制御プログラムが格納されるROM（リードオンリメモリ）や、また制御動作に用いられる各種のデータが格納されるRAM（ランダムアクセスメモリ）やFD（フロッピーディスク）やHD（ハードディスク）等を備える記憶装置2と、文書編集時の各種の情報データが表示される表示装置4とにより構成され、CPU1に前記各構成要素2-4がバスBを介して接続されている。なお、ROMに記憶しているプログラムをFDやHDに記憶させておいてもよい。そしてCPU1は、前記図1の制御プログラムに基づいて、文書編集のための処理や表示装置4および入力装置3の制御を行うもので、特にドラッグ中のマウスのカーソル位置が、何れの文書編集ウィンドウの領域内に存在するかを判定するカーソル位置判定機能を制御する。また、CPU1は、前記図1の制御プログラムに基づいて、ドラッグ中のマウスのカーソル位置が、移動複写元の文書編集ウィンドウ以外の文書編集ウィンドウの領域内に存在し、当該カーソル位置の文書編集ウィンドウが移動複写先に選択されていると、該文書編集ウィンドウを移動複写先文書編集ウィンドウに設定する機能を制御する。さらに、CPU1は、図1の制御プログラムに基づいて、マウスのドラッグ操作の終了により、範囲指定された文書データを移動複写先文書編集ウィンドウに移動または複写する機能を制御する。

6

【0017】図3に示すように、本実施例の文書編集時においては、表示装置4の表示画面5には、移動または複写する文書データに対する範囲指定が行われる移動複写元文書編集ウィンドウ6と、範囲指定された文書データが移動または複写される移動複写先文書編集ウィンドウ7とが同時表示可能になっている。これらの移動複写元文書編集ウィンドウ6と移動複写先文書編集ウィンドウ7とには、現在編集中的テキストや図形などの文書データが表示され、マウスを操作してマウスカーソル8を表示画面5上を移動させることにより、編集対象データの指定、移動、複写などの編集操作や、ウィンドウの移動やサイズ変更などのウィンドウ操作が行われるようになっている。

【0018】次に、本実施例の文書編集方法を図1のフローチャートに基づき、図4及び図5を参照して説明する。

【0019】ステップS101において、オペレータは現在編集中的移動複写元文書編集ウィンドウ6内で、マウス等を操作することにより、移動または複写の対象となる文書データの範囲指定をする。この範囲指定は、図4に示すように、マウスを移動させてマウスカーソル8を移動または複写の対象となる文書データの先頭に移動し、マウスのクリック用の釦を押してクリックを行い、釦を押した状態でマウスを文書データの終端まで移動させるドラッグを行い、終端で釦を放してリリースを行う。このようにして範囲指定された文書データ9は、背景色とテキスト色とが反転されて指定範囲が強調表示される（図4では範囲指定された文書データ9に斜線が付されている）。次いで、ステップS102に進んで、図4に示すように、範囲指定され反転表示状態にある文書データ9上の任意の点をマウスでクリックしてからドラッグを開始し、この状態でステップS103に進んで、CPU1によりドラッグを開始した移動複写元文書編集ウィンドウ6が移動複写先に選択され、ステップS104に進む。

【0020】ステップS104では、CPU1によってドラッグ中のマウスカーソル8が何れの文書編集ウィンドウの領域内にあるかが判定され、ドラッグを開始した移動複写元文書編集ウィンドウ6の領域内にあると判定されると、ステップS107に進む。ステップS107で、マウスの釦がリリースされドラッグの終了が判定されると、ステップS108に進んで、この場合の移動複写先である移動複写元文書編集ウィンドウ6の現在のマウスカーソル8の示す位置或いは移動複写元文書編集ウィンドウ6に予め設定された挿入位置に範囲指定された文書データ9が移動または複写される。ステップS107でドラッグが終了していないと判定されると、ステップS104に戻って同一の処理が繰り返され、ドラッグの終了と判定された時点でステップS108に進んで移動または複写処理が行われる。

7

【0021】一方、ステップS104で、マウスカール8がドラッグを開始した移動複写元文書編集ウインドウ6の領域外に存在すると判定されると、ステップS105に進んで、CPU1により移動複写先を移動複写元文書編集ウインドウ6から、他の文書編集ウインドウに変更する選択がされているか否かの判定が行われる。この選択は、オペレータがマウスのクリック用の釦以外に設けてある選択釦を押し込み操作することにより行われ、マウスに選択釦が設けてない場合には、キーボード上の特定のキーを操作することによって行われる。ステップS105で移動複写元文書編集ウインドウ6以外への移動複写先の選択（第1の実施例では移動複写先文書編集ウインドウ7の選択）が行われていると、ステップS106に進んでCPU1により、移動複写先文書編集ウインドウ7に移動複写先が設定される。

【0022】次いで、ステップS107に進んで、ドラッグの終了が判定されると、ステップS108に進んで移動複写先文書編集ウインドウ7の現在のマウスカール8の示す位置或いは移動複写先文書編集ウインドウ7に予め設定された挿入位置に、範囲指定された文書データ9が移動または複写される。このようにして、例えば図5に示すように位置11にあった文書データをマウスカール8の操作によりドラッグ軌跡10に沿って位置12に移動させることができる。ステップS107でドラッグが終了していないと判定されると、ステップS104に戻って同一の処理が繰り返され、ドラッグの終了と判定された時点でステップS108に進んで移動または複写処理が行われる。

【0023】また、ステップS105で移動複写元文書編集ウインドウ6以外への移動複写先の選択が行われていないと判定されるとステップS107に進み、ステップS107でドラッグの終了が検出された時点で、ステップS108に進んで、移動複写元文書編集ウインドウ6の現在のマウスカール8の示す位置或いは移動複写元文書編集ウインドウ6に予め設定された挿入位置に範囲指定された文書データ9が移動または複写される。

【0024】このように、第1の実施例によると、移動複写元文書編集ウインドウ6内で範囲指定された文書データを同一文書編集ウインドウ6内または異なる文書編集ウインドウ内の所望の位置に、ポインティングデバイスのドラッグ操作により、オペレータに操作上の負担を与えずに、操作性よく誤処理なしに移動または複写することが可能となる。

【0025】〔第2の実施例〕次に、本発明の第2の実施例を図6ないし図10を参照して説明する。図6は第2の実施例に係る文書編集方法のフローチャート、図7ないし図10は第2の実施例による文書編集過程でのディスプレイの表示の説明図である。

【0026】本実施例を実行する文書編集装置は、すでに図2を参照して説明した第1の実施例を実行する文書

8

編集装置と基本的には同一の構成を有し、特にCPU1は、第1の実施例で説明した機能に加えて、図6に示す制御プログラムに基づいて、移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されているか否かを判定する機能、移動複写先の文書編集ウインドウが最前面に配置されていないとき、移動複写先の文書ウインドウを最前面に配置する機能、最前面に配置された移動複写先の文書編集ウインドウ内に、範囲指定された文書データの挿入位置を表示する機能を制御する。

【0027】本実施例の文書編集時においては、図3を参照して説明した第1の実施例と同様に、表示装置4の表示画面5には、移動または複写する文書データの範囲指定が行われる移動複写元文書編集ウインドウ6と、範囲指定された文書データが移動または複写される移動複写先文書編集ウインドウ7とが同時表示可能になっている。これらの移動複写元文書編集ウインドウ6と移動複写先文書編集ウインドウ7とは、第1の実施例と同様に、現在編集中的テキストや図形などの文書データが表示され、マウスを操作してマウスカール8を表示画面5上で移動させることにより、編集対象データの指定、移動、複写などの編集操作や、ウインドウの移動やサイズ変更などのウインドウ操作が行われるようになっている。

【0028】次に、本実施例の文書編集方法を図6のフローチャートに基づき図7ないし図10を参照して説明する。

【0029】図6のフローチャートのステップS601ないしステップS606での処理は、すでに図1を参照して説明した第1の実施例の文書編集方法のステップS101ないしステップS106の処理と同一なので重複した説明は行わない。

【0030】本実施例では、ステップS606からステップS607に進んで、この場合には移動複写先に選択されている移動複写先文書編集ウインドウ7が、表示画面5で最前面に表示されているか否かがCPU1により判定される。そして、最前面に表示されていないと判定されると、ステップS608に進んで、CPU1によってポップアップ処理が行われ、移動複写先文書編集ウインドウ7が最前面に配置される。図7、図8は移動複写先文書編集ウインドウ7が最前面に配置されていない状態であり、このポップアップ処理によって、図9、図10に示すように、移動複写先文書編集ウインドウ7が最前面に配置される。このために、移動複写先文書編集ウインドウ7が全面で表示され、範囲指定された文書データの挿入位置を正確に指定することが可能になる。

【0031】ステップS608でポップアップ処理が行われると、ステップS609に進み、図9に示すように、指定された文書データ9をドラッグ軌跡10に示すように移動し、挿入位置Iが表示され、更に図10に示すように、移動複写先文書ウインドウ7内でのマウスカ

9

カーソル 8 の移動に伴って、挿入位置 I が 11 から 12 へと移動して、範囲指定された文書データの挿入位置が、アルファベット I で明確に表示される。この場合、移動複写先文書編集ウィンドウ 7 内にマウスカーソル 8 が位置していると、挿入位置がマウスカーソル 8 位置に応じて移動して挿入位置がアルファベット I で表示される。また、移動複写先文書編集ウィンドウ 7 の外にマウスカーソル 8 が位置していると、移動複写先文書編集ウィンドウ 7 内の文書をマウスカーソル 8 の位置に応じてスクロール処理が行われ、マウスカーソル 8 位置に最も近い位置に挿入位置がアルファベット I で表示される。

【0032】次いで、ステップ S 610 において、マウスの釦がリリースされドラッグの終了が検出されるとステップ S 611 に進む。ステップ S 611 では、範囲指定された文書データ 9 が、移動複写先に変更選択された移動複写先文書編集ウィンドウ 7 の現在の即ちアルファベット I の挿入位置に移動または複写される。また、ステップ S 610 でドラッグが終了していないと判定されると、ステップ S 604 に戻って同一の処理が繰り返され、ドラッグの終了と判定された時点でステップ S 611 に進んで移動または複写処理が行われる。

【0033】一方、ステップ S 604 でマウスカーソル 8 が当初に移動複写先に設定されている移動複写元文書編集ウィンドウ 6 の領域内にあると判定され、或いはステップ S 604 で、マウスカーソル 8 の位置が、移動複写元文書編集ウィンドウ 6 の領域外にあるが、ステップ S 605 で、他の文書編集ウィンドウへの移動複写先の変更が選択されていないと判定された場合にもステップ S 609 に進む。この場合は、移動複写先の変更選択が行われていないので、ステップ S 609 では、マウスカーソル 8 が移動複写元文書編集ウィンドウ 6 の領域内にあると、移動複写元文書編集ウィンドウ 6 内でのマウスカーソル 8 の移動に伴って挿入位置が移動して、範囲指定された文書データの挿入位置がアルファベット I で表示される。また、移動複写先文書編集ウィンドウ 6 外にマウスカーソル 8 が位置していると、移動複写先文書編集ウィンドウ 6 内の文書をマウスカーソル 8 の位置に応じてスクロール処理をしながら、マウスカーソル 8 位置に最も近い位置に挿入位置がアルファベット I で表示される。

【0034】次いで、ステップ S 610 において、マウスの釦がリリースされドラッグの終了が検出されるとステップ S 611 に進む。ステップ S 611 では、範囲指定された文書データ 9 が、移動複写元文書編集ウィンドウ 6 の現在のアルファベット I の挿入位置に移動または複写される。また、ステップ S 610 でドラッグが終了していないと判定されると、ステップ S 604 に戻って同一の処理が繰り返され、ドラッグの終了と判定された時点でステップ S 611 に進んで移動または複写処理が行われる。

10

【0035】このように、第 2 の実施例によると、移動複写元文書編集ウィンドウ 6 内で範囲指定された文書データの他の挿入位置への移動または複写に際して、例えば移動複写元文書編集ウィンドウ 6 によって覆われている移動複写先の文書編集ウィンドウに挿入位置がある場合でも、該移動複写先の文書編集ウィンドウを最前面に表示することにより、挿入位置を明確にアルファベット I で表示することができ、オペレータに操作上の負担を与えずに、操作性よく誤処理なしに文書データの移動または複写することが可能となる。

【0036】尚、本発明は、複数の機器から構成されるシステムに適用しても、1つの機器から成る装置に適用しても良い。また、本発明はシステム或は装置にプログラムを供給することによって達成される場合にも適用できることは言うまでもない。

【0037】

【発明の効果】請求項 1 および 2 に記載の発明によると、ポインティングデバイスのカーソル位置が移動複写元の文書編集ウィンドウ以外の文書編集ウィンドウ内に存在すると判定され、且つ該文書編集ウィンドウが移動複写先を選択されていると判定されたとき、該文書編集ウィンドウが移動複写先に設定され、移動複写元の文書編集ウィンドウで範囲指定された文書データが該移動複写先に設定された文書編集ウィンドウに複写または移動されるので、移動複写先が移動複写元文書編集ウィンドウ内外のいずれにあるかに拘らず、ポインティングデバイスのドラッグ操作により、オペレータに操作上の負担を与えずに、操作性よく誤処理なしに文書データを他の文書編集ウィンドウに移動または複写をすることが可能となる。

【0038】請求項 3 および 4 に記載の発明によると、文書データの移動複写先の文書編集ウィンドウが最前面に表示されているか否かが判定され、最前面に配置されていないと該文書編集ウィンドウが最前面に配置され、最前面に配置された移動複写先の文書編集ウィンドウ内に、範囲指定された文書データの挿入位置が表示されるので、文書データをポインティングデバイスにより、移動複写先の文書編集ウィンドウの所望の移動または複写位置に、操作性よく且つ正確に移動または複写することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の第 1 の実施例に係る文書編集方法のフローチャートである。

【図 2】第 1 の実施例を実行する文書編集装置の構成を示すブロック図である。

【図 3】第 1 の実施例による文書編集過程でのディスプレイの第 1 の表示の説明図である。

【図 4】第 1 の実施例による文書編集過程でのディスプレイの第 2 の表示の説明図である。

【図 5】第 1 の実施例による文書編集過程でのディスプ

11

レイの第3の表示の説明図である。

【図6】本発明の第2の実施例に係る文書編集方法のフローチャートである。

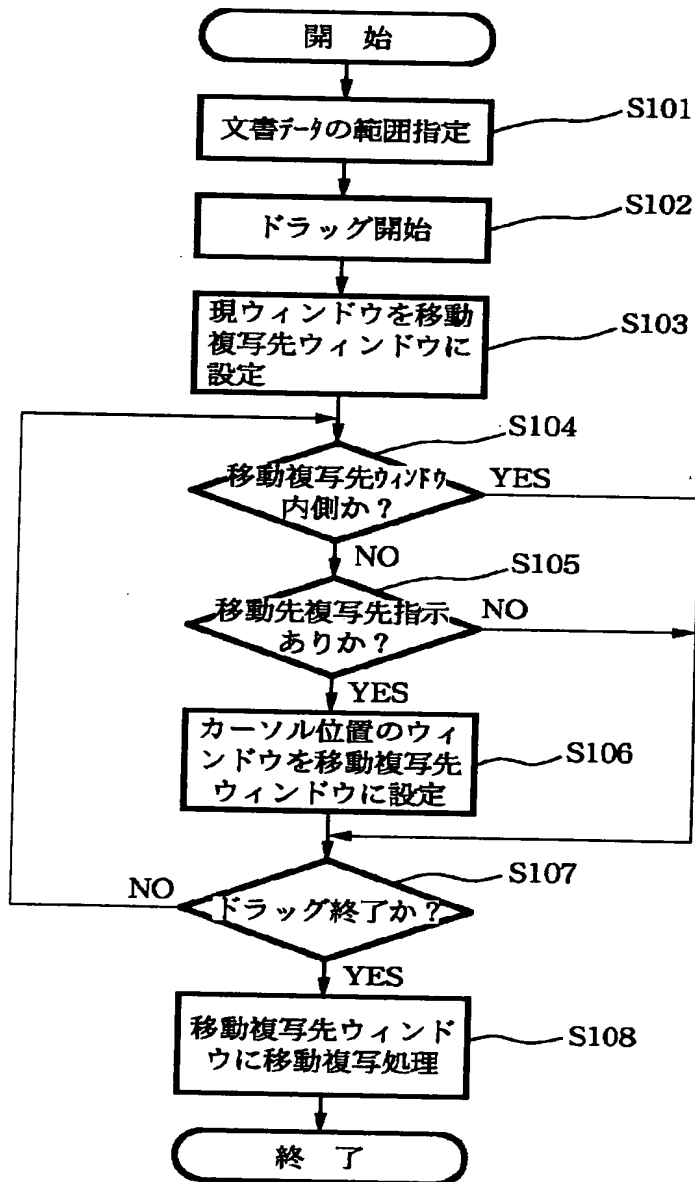
【図7】第2の実施例による文書編集過程でのディスプレイの第1の表示の説明図である。

【図8】第2の実施例による文書編集過程でのディスプレイの第2の表示の説明図である。

【図9】第2の実施例による文書編集過程でのディスプレイの第3の表示の説明図である。

【図10】第2の実施例による文書編集過程でのディスプレイ * 10

【図1】



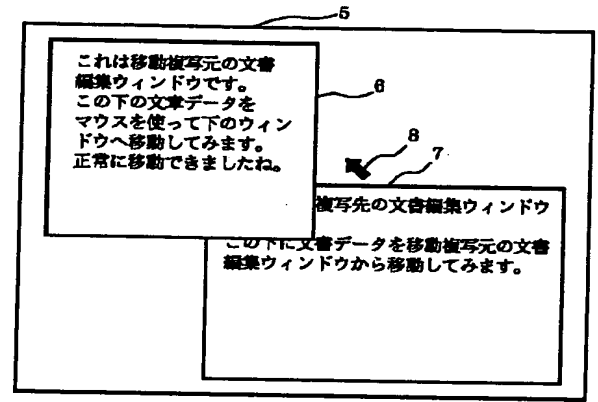
12

* プレイの第4の表示の説明図である。

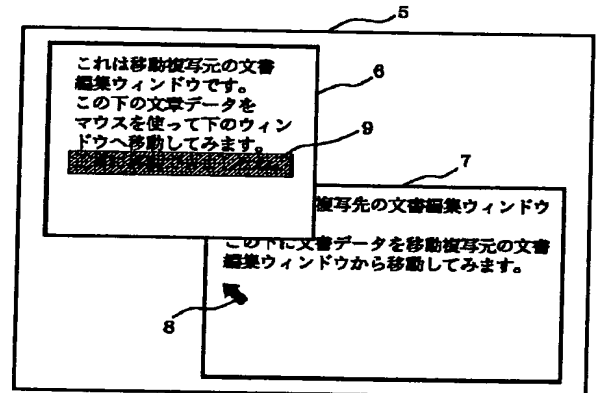
【符号の説明】

- 1 中央処理装置
- 2 記憶装置
- 3 入力装置
- 4 表示装置
- 5 表示画面
- 6 移動複写元文書編集ウィンドウ
- 7 移動複写先文書編集ウィンドウ

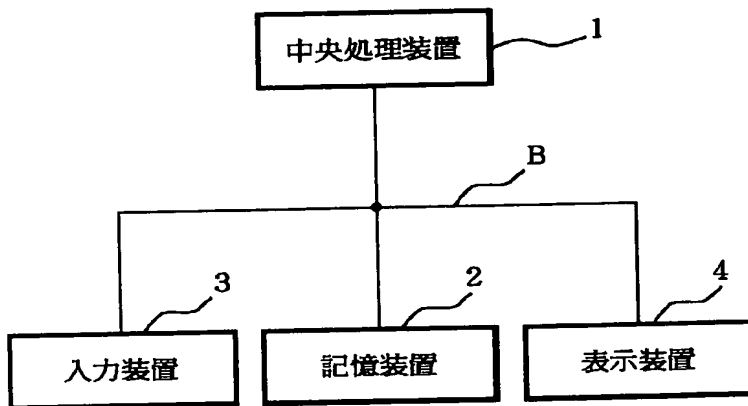
【図3】



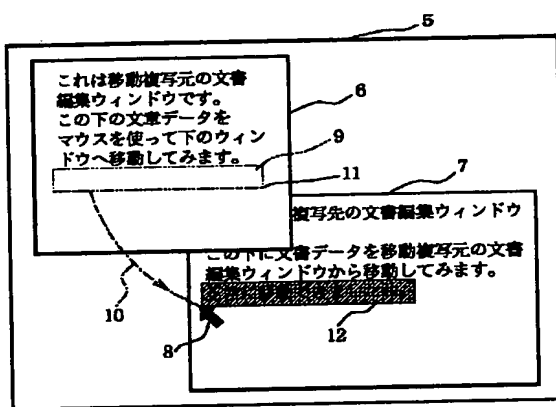
【図4】



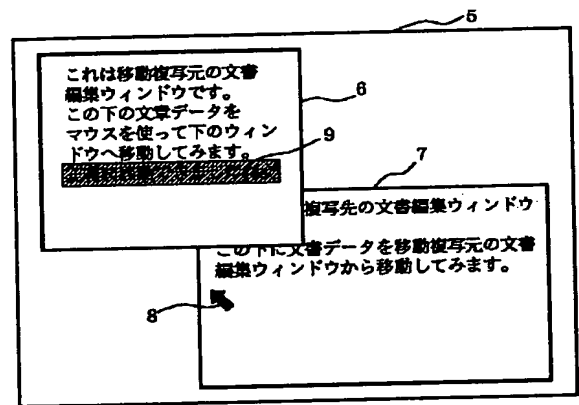
【図2】



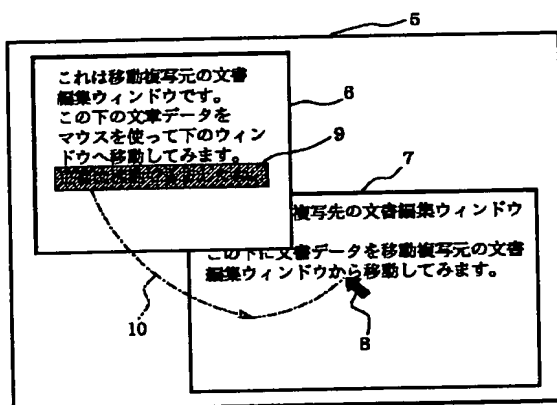
【図5】



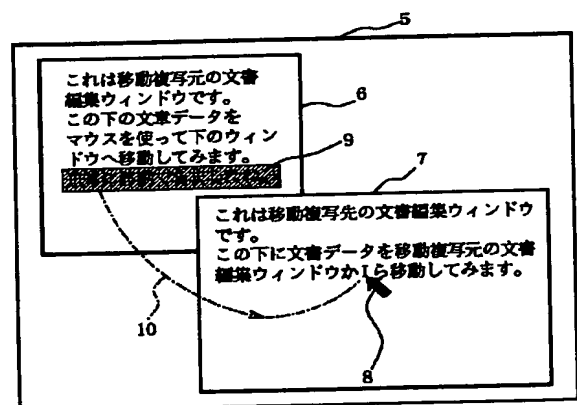
【図7】



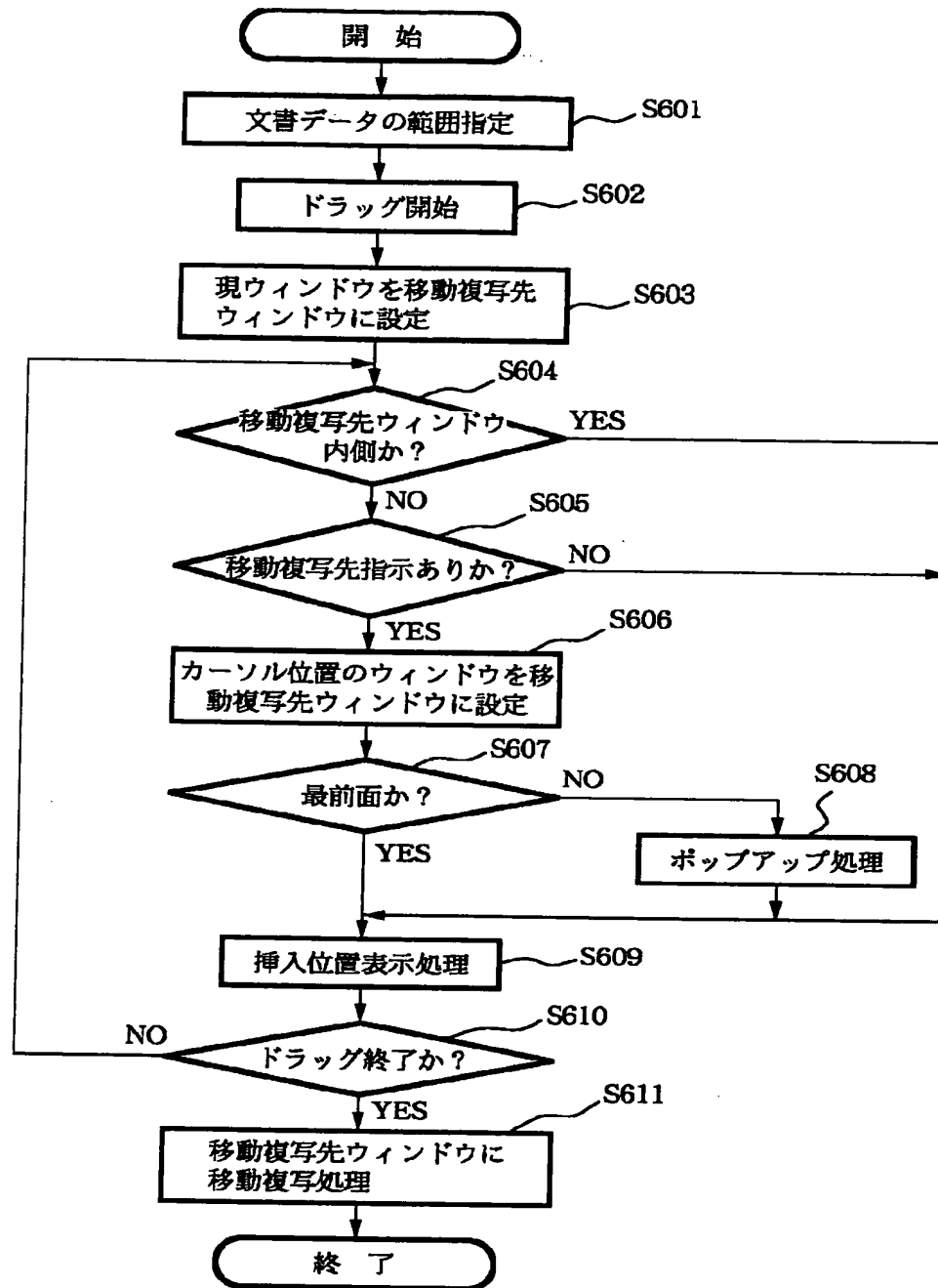
【図8】



【図9】



【図 6】



【図 10】

